

# 確かな読みの力を育む学習指導の工夫

—説明的な文章における学習スキルの活用を通して—

うるま市立勝連小学校 教諭 安里 章子

## I テーマ設定の理由

現代は、「知識基盤社会」と言われ、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視した「生きる力」の育成がますます重要となっている。このような状況の中で、これからの子どもたちが、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育むことを目的に、学習指導要領の改訂が行われ、学習の基礎的・基本的な内容を発達の段階に応じて徹底して習得させ、学習の基盤を構築していくことが大切であると示された。

学習指導要領解説国語編では、国語科の基本目標を表現力と理解力の育成とし、各学年における各領域の目標が示されている。第3学年及び第4学年「(c) 読むこと」の目標を見てみると、「目的に応じ、内容の中心を捉えたり、段落相互の関係を考えたりしながら、読む能力を身に付けさせると共に、幅広く読書しようとする態度を育てる。」と示されている。

本県の平成26年度の全国学力・学習状況調査の国語科における課題を見てみると、知識に関するA問題は、昨年度に比べ14.7%の改善が見られたが、B問題の主として「活用」に関する問題は、1.5%の改善率となっている。主にB問題の内容を見てみると、多様な文章を読むこと、目的に応じた複数の資料を読むこと、根拠を明らかにして書くことに課題が見られた。

また、本校の結果を県と比較してみると、目次や索引を活用して本を効果的に読むことの問題は、県に比べ上回っているものの、科学に関する本や文章などを効果的に読むことや詩を比べて読むことの読解力に関する問題に課題が見られるという結果が出ている。

私自身のこれまでの授業を「読むこと」に焦点を当てて振り返ってみると、全体的に文をなぞるだけの教師主導の授業であり、文章全体の構造や段落相互の関係を捉えたり、叙述を根拠にして自分の想像したことを読ませたりする活動が十分ではなかった。また、音読や読書活動にも力を入れるようにしてきたが、全体的に読みを深めさせることはできなかった。このような課題を解決するためには、目的に応じていろいろな本や文章の内容の中心を捉えたり、段落相互の関係を考えたりして文章全体の構成を把握し、自分の考えをまとめたりしながら分析的に読む能力を育成することが大切である。

そこで、本研究では、説明的な文章の学習において、学習スキルを活用し、基礎的・基本的内容を読み取らせ、それを書く活動につなげる事により、確かな読みの力を育むことができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

## II 研究目標

説明的な文章の学習指導において、学習スキルを活用し、基礎的・基本的な内容を読み取らせ、書く活動に繋げる事により、確かな読みの力を育む学習指導について研究する。

## III 研究仮説

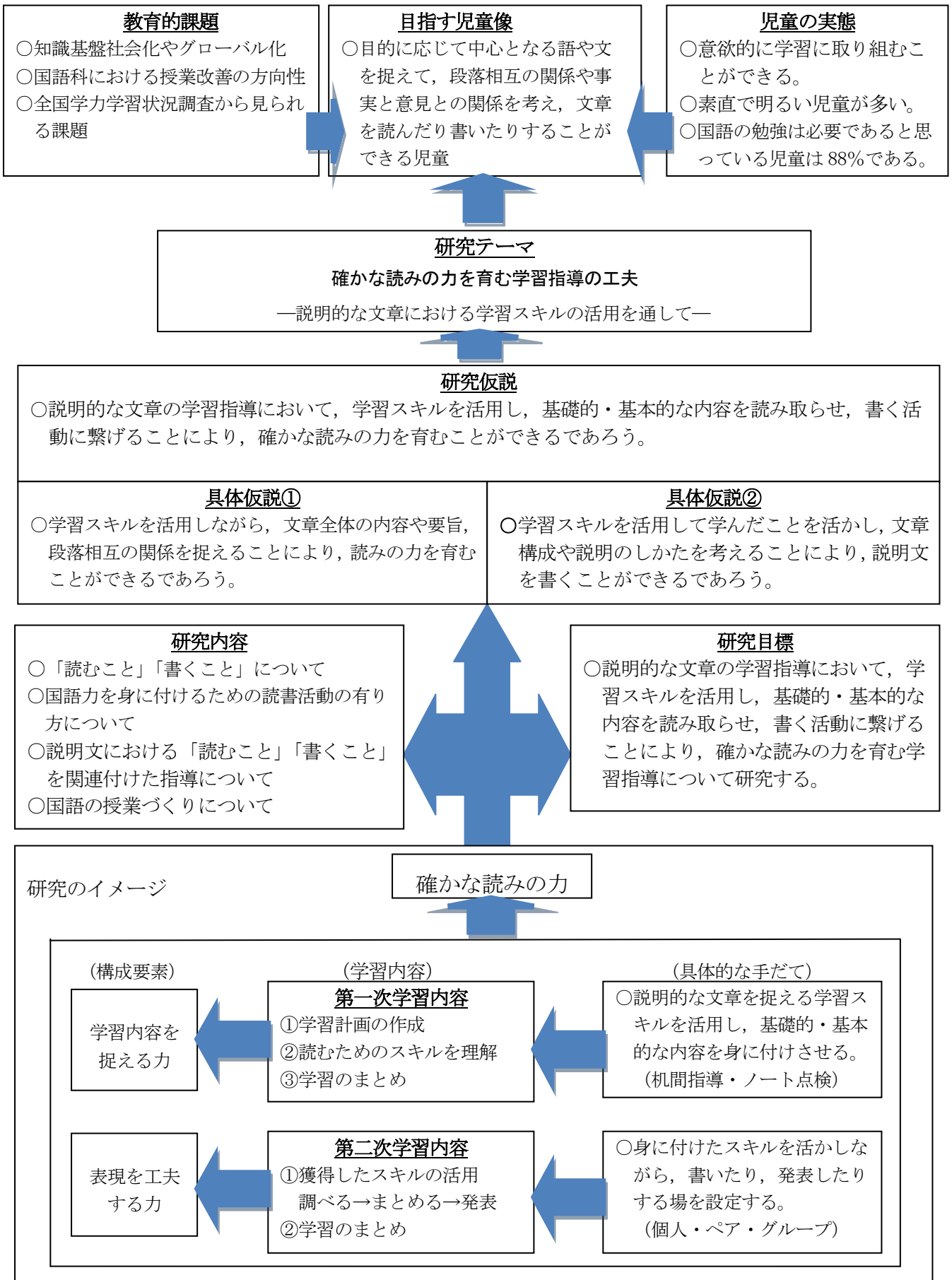
### 1 基本仮説

説明的な文章の学習指導において、学習スキルを活用し、基礎的・基本的な内容を読み取らせ、書く活動に繋げる事により、確かな読みの力を育むことができるであろう。

### 2 具体仮説

- (1) 学習スキルを活用しながら、文章全体の内容や要旨、段落相互の関係を捉えることにより、読みの力を育むことができるであろう。
- (2) 学習スキルを活用して学んだことを活かし、文章構成や説明のしかたを考えることにより、説明文を書くことができるであろう。

#### IV 研究の全体構想図



## V 研究内容

### 1 「読むこと」「書くこと」について

「小学校学習指導要領解説国語編」における各学年の「読むこと」「書くこと」の目標及び系統は以下の表1のように示されている。

表1 「読むこと」「書くこと」の目標及び系統

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
読むこと	(3)書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	(3)目的に応じ、内容の中心をとらえたり <u>段落相互の関係を考えたり</u> しながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	(3)目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
書くこと	(2)経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。	(2)相手や目的に応じ、調べたことが伝わるように、 <u>段落相互の関係を</u> などに <u>注意して</u> 文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。	(2)目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果をj考へて文章を書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。

第3学年及び第4学年の「読むこと」「書くこと」の目標の中に「段落相互の関係を考え・・・」や「段落相互の関係などに注意して・・・」が挙げられており、「段落相互の関係」が強調されている。

これらのことから、説明的な文章を「読むこと」の活動においては、段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせ、「書くこと」の活動においては、段落相互の関係に注意して、説明文を書く能力を身に付けさせる指導を行うことが、「確かな読みの力」を育むことにつながると考える。

### 2 国語力を身に付けるための読書活動の在り方について

平成16年度の文科省審議会答申では、読書の重要性を以下のように示している。

読書は、人類が獲得した文化である。読書により我々は、楽しく、知識が付き、ものを考えることができる。また、あらゆる分野が用意され、簡単に享受でき、しかもそれほど費用が掛からないという特色を有する。読書習慣を身に付けることは、国語力を向上させるばかりでなく、一生の財産として生きる力ともなり、楽しみの基ともなるものである。

読書の習慣を幼いころから身に付けることが大切であるが、ここでいう読書とは、文学作品を読むことに限らず、自然科学・社会科学関係の本や新聞・雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する本を読んだりすることなども含めたものである。

国語力との関係でも、既に述べたように、読書は、国語力を構成している「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」「国語の知識等」のいずれにもかかわり、これらの力を育てる上で中核となるものである。特に、すべての活動の基盤ともなる「教養・価値観・感性等」を生涯を通じて身に付けていくために極めて重要なものである。

小学校学習指導要領では、「読書の指導については、目的に応じて本や文章などを選んで読んだり、それらを活用して自分の考えを記述したりすること」を重視している。また、「日常的に読書に親しむために、学校図書館を計画的に利用し必要な本や文章などを選ぶことができるようにすること」と示している。

このようなことを踏まえ、説明的な文章を読んだり、書いたりする学習において並行読書を計画し、児童が関連図書をいつでも手に取り、調べ学習ができるような環境づくりをしていきたいと考える。

### 3 説明文における「読むこと」「書くこと」を関連付けた指導について

国語教育指導用語事典において、「説明文と説明文指導の意義とねらい」について以下のように記述されている。

#### (1) 説明文とは

「説明文とは、書き手が、ある内容（知識・情報など）をそれについて知りたいと思っている人に、要点を整理して、よく分かるよう『解き明かす』文章のことである。この種の文章は、日常生活においても、例えば、辞典・事典・図鑑の説明、映画・音楽・旅行など催し物の案内、新聞・雑誌の仮説文、製品・器具の取り扱い説明、薬品・家庭用品の効能書および使用上の注意、手芸・料理などの実用書の図入り解説など非常に幅広く目にすることができる。」

#### (2) 説明文指導の意義とねらい

「説明文は、書き手の考えをもとにして書かれているのはもちろんのことであるが、それがただ主観的に流れていくのではなく、できるだけ客観的な立場から、多くの人に納得してもらうことができるように記述されることが望ましい。つまり、説明文は、『したこと・あったこと』『思うこと・感じること』といった自己表現、自己経験の表出とは違って、知識・情報という客観的な世界に関して、深い見識を蓄えて「～である。」といわば定義していく、いくぶんか高度な作業を伴っているのである。従って、そこには、理知的・合理的に筋道を立てて思考を展開していくことができる能力が要請されることになる。そういう意味からいえば、説明文を書かせるということは、明晰で、理知的な思考力にも繋がっていき作文教育における大切な領域であるということが言える。」と示されている。

また、小学校学習指導要領解説国語編において、教科の目標が二つの部分から構成されており、前段は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める」としており、後段は、「思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」としている。

前段では、国語の能力の根幹となる国語による表現力と理解力を育成することが、国語科の最も基本的な目標であることを述べている。すなわち、「適切に表現する能力」と「正確に理解する能力」とは、連続的かつ同時に機能するものであることから最初に位置づけている。

これらのことから、日常生活に生きて働く力として、文章を読み、そこから得た知識や感動を適切に表現する力を育てるために、説明的な文章における指導において、「読むこと」と「書くこと」の関連を図ることが大切であると考ええる。

### 4 国語の授業づくりについて

「小学校学習指導要領」第1章総則 第4指導計画の作成などに当たって配慮すべき事項 2(1)(2)(4)では、以下のように示されている。（一部抜粋）

- (1) 基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視する。
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視する。  
児童の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるよう工夫する。
- (4) 児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動する。

また、白石範孝（筑波大学付属小学校教諭）は、『説明文の読解力向上を図る授業づくり』において、「土台となるのは、基礎的・基本的な知識及び技能であり、教科・領域における『原理・原則』の習得が大切であること、例えば、説明文においては、段落、形式段落、要点、要約・・・等があり、それらの用語の具体的内容やそれを求めるための具体的方法を教えることが大切であり、その具体的方法を習得することが『原理・原則』を習得することである」という旨のことを述べている。

これらのことから、国語科の授業づくりにおいては、身に付けるべき基礎的・基本的な内容を習得させるための具体的な方法が求められると考える。

さらに、白石氏は、説明文の読解力を表2富士見スキルのように分析しており、「身に付けさせたい力」を説明文の基礎・基本を捉え、指導過程で押さえることが大切であると述べている。

表2 富士見スキル（説明文の読解力）第15版

めざす児童像		低学年	中学年	高学年
		書いてあることを正確に読み取り、自分の表現に生かせる子。	文章構成をとらえ、読み取った内容について感想をもてる子。	要旨をとらえ、自分の考えを再構築できる子。
身に付けさせたい力		◎「問い」と「答え」の文を自分で見つける。 ◎段落の仲間作りをして、「はじめ」「中」「終わり」の構成に気づく。 ◎学習したことを、自分の表現に生かす。	◎段落ごとに要点をつかみ、意味のまとまりを捉える。 ◎段落相互の関係をつかみ、文章の構成を捉える。 ◎筆者の考えを受けて、自分の感想をもつ。	◎要旨を正しく読み取る。 ◎要旨を受けて、自分の思いや考えをもつ。 ◎自分の考えを見直し、深める。
読みのスキル	1 「問い」と「答え」の文に気づく技術	a.文末表現に着目して「問い」と「答え」を見つめる。	a.「問い」に対する「答え」を見つめる。 b.話題提示（問題提起）の段階に気づく。	a.話題提示（問題提起）の段階を見つめる。 b.話題提示（問題提起）に対するまとめ（答え）の段落を見つめる。 c.筆者に問いかけながら読む。
	2 段落をとらえる技術	a.形式段落をとらえ、番号をうつ。 b.順序（時間・事柄）を表す言葉に着目する。 c.内容を比べながら読む。 d.「問い」と「答え」の文を作る。	a.キーワードやセンテンスを見つめる。 b.キーワードやセンテンスをもとに、要点を短い文にまとめる。（3年） c.要点をもとに、意味のまとまりに気づく。 d.意味段落の内容をまとめる。（4年） e.「問い」の文を作る。	a.意味段落の内容をつかむ。 b.文章構成から要旨の段落をつかむ。
	3 構成をとらえる技術	a.挿絵や写真を叙述と結びつけて、説明されている事柄を読む。 b.段落の仲間作りをする。 c.「はじめ」「中」「おわり」の構成に気づく。	a.意味のまとまりをもとに、段落相互の関係をつかむ。 b.「はじめ」「中」「おわり」の構成をとらえる。 c.文章構成図に表す。（4年）	a.「序論」「本論」「結論」のまとまりをとらえる。 b.「序論」「本論」「結論」のそれぞれの役割と相互関係を捉える。
	4 表現を読み取る技術	a.文末表現・指示語・接続語の役割を理解する。 b.主語と述語の関係を理解する。	a.文末表現・指示語・接続語の役割を理解する。 b.事実と筆者の考えや感想を読み分ける。 c.筆者の述べ方や説明の特徴をとらえる。	a.文末表現・指示語・接続語の役割を理解する。 b.事実と筆者の考えや感想を読み分ける。 c.具体的な内容と抽象的な表現を読み分け、要旨を捉える。 d.筆者の述べ方や説明の仕方の特徴を捉える。
	5 自分の考えを表現する技術	a.学んだ文型を使って、簡単な説明文を書く。	a.自分の経験や体験を比べて、感想をもつ。（3年） b.筆者の考えをもとに、叙述に即して、自分の感想をもつ。（4年）	a.要旨をわかりやすい言葉で書き表す。（5年） b.構成を工夫して要約文を書く。（6年） c.叙述に即して根拠を明らかにしながら、要旨に対する自分の考えをもつ。

## 5 説明文を読むため（書くため）のスキル

本研究では、「富士見スキル」を参考に、説明文において「身に付けさせたい力」を以下のような学習スキルを作成、活用することで、説明文を読むための基礎的・基本的な内容を具体的に習得させ、書く活動に繋げていくことにした。

視点	大切なことば	説明文を読むため（書くため）のスキル（3年）
気づく	①「問い」と「答え」 	◎説明文についての「問い」に対する「答え」の文を見つける。 「問い」：筆者が書こうとする内容をぎもんの形にした文のこと。 「～でしょうか。」「～ですか。」「～でしょう。」のように文末に「～か。」が付いている文や「～でしょう。」のように文末に「～か」を付けられるかを見つける。 「答え」：筆者のぎもんに答えている文のこと。 文章によっては、いくつかの「問い」を始めに示して説明する場合や「問い」と「答え」をくり返して示す場合がある。中には、「問い」がかくれている説明文もある。 文末が「～である。」「～です。」「～なのである。」「～なのです。」「～というわけである。」の付く文を見つける。
	とらえる	②形式段落
③中心文		◎形式段落の中のいくつかの文の中で、一番中心になる文。段落に何が書いてあるのかをすばやくつかむことができる。くり返し出てくる言葉や、問い・題名とつながりのある言葉などに気をつけると、中心文を見つけやすくなる。段落の最初か最後にあることが多い。
④要点		◎中心文を短くまとめ、段落のキーワードやくり返し出てくる言葉を最後につける。（体言止め）
⑤小見出し		小見出しを見ていくと、文章に書いてあることの大体と組み立てをとらえることができる。 ◎小見出しの付け方 ・大事な言葉を使って表す。      ・大事な文を短くしてつなげる。 ・大事な言葉をつなげる。      ・大事なことをちがう言葉で言いかえる。
	⑥文章全体の組み立て	◎「はじめ」「中」「終わり」の3つからできている。 「はじめ」→これから話題にすることや「問いかけ」が書かれている文。 「中」→話題や問いかけに対する説明や答えが書かれている文。 「終わり」→文章全体のまとめや筆者の主張（考え・意見）が書かれている文。
読み取る	⑦文末表現	◎文末表現に注目して、文章の持ちようを読み取る。 「ありの行列」の文末と「すがたをかえる大豆」の文末のちがいに気づく。 何かをしたときや、たしかめた時に「～でした。」「～ました。」の形で表す。 「すがたをかえる大豆」の文末は「～です。」「～ます。」である。
	⑧接続語	◎文と文、段落と段落とを結び付けるはたらきをする。 接続語は、文と文、段落と段落の関係をはっきりと示すはたらきがあり、筆者の主張（考え・意見）をくわしくしたり、強くしたりする。
	⑨指示語	◎指示語の示しているところは多くの場合直前にあるが、後の部分や、はなれた部分にあるものもある。指示語が示している語句や内容を入れて文の意味が通じることが大切である。（こ・そ・あ・ど言葉）
表現する	⑩表現活動	◎授業で学んだことをもとに、自分の考えを発表し合い、共通点や違い、工夫している点を見つける。新聞や絵作文などで表現する方法もある。
	⑪並行読書	◎物語を豊かに読んだり、説明文を正しく読んだりするために欠かせない取り組みである。教科書に書かれていない内容について、きょうみを示し、よりくわしく調べることにより、いろいろな知識を身に付け、文章を正しく読む力につなげられる。

## VI 指導の実際

### 1 検証授業①

- (1) 単元名 せつめいのしかたを考えよう  
 教材名 「すがたをかえる大豆」 国分 牧衛 (光村図書 3年下)  
 「食べ物のひみつを教えます」

### (2) 単元の目標

【読むこと】「すがたをかえる大豆」→【読(1)ア・イ・エ】

- 中心となる語や文を捉え、段落相互に関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。
- 内容を大きくまとめたり、必要などころや細かい点に注意したりしながら読むことができる。



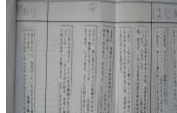
【書くこと】「食べ物のひみつを教えます」→【書(1)ア・イ・ウ・カ】【伝国(1)イ(ク)(カ)】

- 「はじめ・中・終わり」の構成を意識し、「中」の例を絵と組み合わせながら段落に分けて書くことができる。
- 書いたものを読み合い、意見を伝え合うことができる。

### (3) 単元の評価規準

すがたをかえる大豆 (読む活動)		
[関・意・態]	[読む]	[言語]
○文章の内容に関心をもち、文章構成を理解しながら読もうとしている。	○中心となる文や大事な言葉に気を付けて音読している。 読(1)ア ○「問い」の形をとらない話題提示があることを理解し、中心文を確かめながら説明されていることを整理して読んでいる。読(1)イ ○「はじめ・中・おわり」の構成に注意し、「中」に書かれた具体例を整理しながら読んでいる。読(1)エ	○文章中の表現や言葉に注目し、辞書を使って調べている。 伝国(1)イ カ
食べ物のひみつを教えます (書く活動)		
[関・意・態]	[書く]	[言語]
○食べ物について関心をもち、課題に合わせて調べたり書いたりしようとしている。	○書く目的によって必要となる事項と観点を理解し、取材している。 書(1)ア ○「中」の部分で、内容のまとまりごとに段落を分け、文章を構成している。書(1)イ ○目的に応じて、事例を挙げて書いている。書(1)ウ ○自分の書き方と友達の書き方を比べ、上手に説明しているところに気づくことができる。書(1)カ	○接続語を適切に使って文を書いている。 伝国(1)ク

### (4) 全体指導計画 (読む活動7時間 書く活動6時間 全13時間)

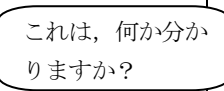

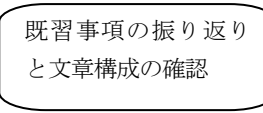


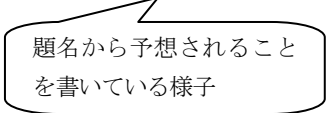

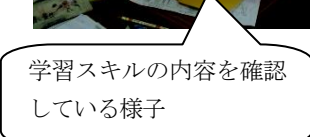
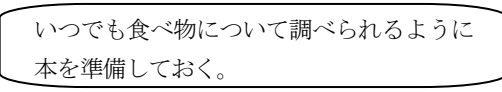

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価・学習スキルの内容
第1次 (読む活動) 並行読書⑪	①	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">説明文の学習のしかたがわかる。</div> ○分かりやすい説明文を書くためのスキルを確認する。 ○実物や教材の拡大写真を見ながら、大豆について知っていることを話し合う。	○学習課題の目標「わかりやすい説明のしかた」を明確にさせる。 ○実物や写真を見せて経験を思い出しやすくする。 	○大豆がさまざまな食べ方をされていることに関心をもち、 スキル ①問・答②形式⑥組み立て
	②	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">漢字や言葉の意味がわかる。</div> ○本文に出てくる漢字や言葉について学習する。	○辞典やデジタル教材を使って確認する。 	○意欲的に辞典を調べたり、漢字を書いたりしている。 スキル ②形式
	③	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「はじめ」「中」「終わり」の内容と役割がわかる。</div> ○8つの形式段落を「はじめ・中・終わり」に分けることができる。	○既習内容を想起させて活動に入る。 	○各段落の短冊を3つの部屋に分けている。 スキル ②形式⑥組み立て

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価・学習スキルの内容	
第1次 (読む活動) 並行読書⑪	④	「はじめ・終わり」には、どんな事が書いてあるか確かめる。 ○「はじめ」と「終わり」の文章を読み、「問い」を考える。	○隠れた「問い」があることや、「終わり」には筆者の考えが書かれていることを押さえる。 	○「はじめ」「終わり」の文から「問い」を考えることができる。 スキル ①問・答 ②形式⑥組み立て	
	⑤	※検証授業 「中」を詳しく読んで中心文を見つける。 ○「中」の段落の内容を正しく読み取り、説明のしかたの工夫を見つけることができる。	○言葉の繰り返しや食べる工夫に着目させながら見つけさせる。 	○言葉の繰り返しや食べる工夫に着目させながら見つけることができる。 スキル ②形式③中心文	
	⑥	分かりやすい文章の工夫を見つける。 ○「中」の段落の内容を正しく読み取り、説明の仕方を見つけることができる。	○大豆がどんどん難しい工夫をされて違う食べ物になっていることを押さえる。 	○文末表現・接続語の工夫、写真の役割について考えることができる。 スキル ②形式③中心文 ⑥組み立て	
	⑦	食べ物についての本を読むことができる。 ○食べ物についての本を読む。 ○本を読んでわかったことや面白かったことを友達に説明する。	○面白いと思ったことや分かったことを付箋紙に書かせるようにする。 	○食べ物について説明した本を選んで読んでいる。 スキル ②形式③中心文⑥組み立て ⑦文末⑧接続語	
	第2次 (書く活動) 並行読書⑪	⑧	食べ物のひみつを調べて、例をあげて説明する文章を書くことができる。 ○学習課題を設定する。 ○「食べ物のひみつを教えます」の全文を読み、説明文にまとめるまでの流れをつかむ。 ○学習計画を立てる。	○教科書を見ながら、何をどの順序で進めた方が良いか話し合わせる。 ○どの食材について調べたいか決めて、学習計画を立てさせる。 	○身近な食材を選んで、調べ学習をする計画を立てることができる。 スキル ①問・答②形式③中心文 ⑥組み立て⑦文末⑧接続語
		⑨	説明の仕方や、食べ物の秘密を考える。 ○「米」「麦」「とうもろこし」「さとうきび」「牛乳」「魚」の中から調べたい材料を選ぶ。 ○教科書p35の図を参考にしながら、思いついたことや考えたことを書く。	○学習課題の目標「わかりやすい説明のしかたを考えよう！」を意識させる。 	○食べ物について関心をもち、課題に合わせて調べようとしている。 ○書く目的によって必要になる事項と観点を理解し、調べている。 スキル ①問・答②形式③中心文 ⑥組み立て⑦文末⑧接続語
		⑩	○できあがった図を見て、分からないことを確認し、調べる方法を考える。		
⑪		説明の工夫を考えながら説明する文章を書くことができる。 ○「米」「麦」「とうもろこし」「さとうきび」「牛乳」「魚」の中から選んだ材料について、どのような食品に姿をかえているか調べた内容を基に説明文を書く。	○おいしく食べる工夫が段落に一つずつ書かれていることや挿絵の効果を考えさせる。 	○学習したスキルを振り返りながら説明文を書くことができる。 スキル ①問・答②形式③中心文 ⑥組み立て⑦文末⑧接続語	
⑫		友達が書いた文章を読み合い、分かりやすく説明するためのポイントを見つける。 ○友達が書いた文章を読み合い、分かりやすくするためのポイントをまとめることができる。	○振り返りのポイントを示し、友達の文章の工夫を見つけてさせる。 	○友達の文章を読み、工夫を見つけることができる。 スキル ①問・答②形式③中心文 ⑥組み立て⑦文末	



(5) 本時の指導

- ①本時の目標：説明文の学習に必要な学習スキルを理解し、文章構成に関心を持ちながら教材文を読むことができる。
- ②本時の仮説：学習スキルの説明をする場面において、既習内容や学習スキルを活用することにより、児童が説明文の内容に関心・意欲をもつことができるであろう。
- ③本時の展開 (1/13)




	学習活動	○指導言 □予想される児童の反応	◇指導上の留意点※評価☆準備
導入 5分	1 実物や教材の拡大写真を見ながら、大豆について知っていることを話し合う。	○これは何か分かりますか。 □大豆です。 ○これは大豆です。大豆のことで知っていることを発表してください。 □納豆になります。 □豆まきで使う豆です。 	◇指導上の留意点※評価☆準備 ☆大豆・写真 ☆マメ知識資料 (栄養価など) 
展開 35分	2 題名から予想したことを書いて発表する。  3 範読を聞いて読めない漢字に振り仮名を振ったり、分からない言葉には線を引いたりする。 4 既習事項を想起する。  5 学習スキルの確認をする。 6 単元のめあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;">分かりやすい説明のしかたを考えよう。</div>	○これは、今日から勉強する説明文の題名です。この題名からどんなお話だと思いますか。ワークシートにまとめて発表して下さい。 □大豆が変身する話を書いてあると思います。 □大豆の色が変わると思います。 ○先生が読みますので、読めない漢字に読み仮名を振り、分からない言葉には線を引きましょう。  ○説明文とは、どのような文のことでしたか。 □「イルカのねむり方」です。「ありの行列」です。   ○そうですね。では、二つの文章はどんな作りになっていたか覚えていますか。 □「はじめ・中・終わり」になっています。 □「問い」と「答え」がある。 ○そうですね。説明文の大事なポイントです。読むために大切なスキルを一緒に確認します。	☆単元名シート   ☆イルカのねむり方の拡大文 ☆ありの行列の拡大文 ◇学習スキルの意識づけ ☆学習スキルシート <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-top: 5px;">スキル①問・答②形式⑥組立て</div>  
まとめ 5分	7 本時のまとめをする。 8 次時の予告をする。	○説明文を勉強するための大切なスキルが分かりましたか。 ○次回は、漢字と言葉の学習をします。  	◇食べ物関係の図書を読むよう意識づける。 ◇単元目標を意識付ける。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-top: 5px;">⑩並行読書</div>

(6) 本時の指導

①本時の目標：「中」の段落を正しく読み取り，中心文を見つけることができる。

②本時の仮説：中心文を見つける場面において，繰り返し出てくる言葉や問いや題名と繋がりのある言葉などに気を付けて読むことにより，中心文を見つけることができるであろう。

③本時の展開 (5/13)

	学習活動	○指導言 □予想される児童の反応	◇指導上の留意点※評価☆準備
導入 5分	<p>1 既習事項の確認をする。</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p> <p>「中」を詳しく読んで，中心文を見つけよう。</p>	<p>○前回は，どのような学習をしたか覚えていますか。</p> <p>□「はじめ」と「おわり」の文の学習をしました。</p> <p>○「はじめ」にはどんなことが書かれていましたか。</p> <p>□「問い」です。大豆のことです。</p> <p>○「終わり」にはどんなことが書かれていましたか。</p> <p>□多くの食べ方が考えられた理由です。</p> <p>○めあての確認をしましょう。</p>	<p>◇学習スキルの確認</p> <p>スキル①問・答②形式</p>  <p>めあての確認をしましょう。</p>
展開 35分	<p>3 中心文の意味を考える。</p> <p>4 学習スキルで確認する。</p> <p>5 音読しながら中心文に線を引く。 (7段落まで繰り返す。)</p> <p>6 ワークシートにまとめる。</p> <p>7 ③～⑦段落を音読する。</p>	<p>○めあてに「中心文を見つける」とありますが，中心文とはどんな文だと思いますか。</p> <p>□大切な文です。□中心の文です。</p> <p>○学習スキルで中心文の見つけ方を確認しましょう。</p> <p>○3段落を音読しながら，中心文を見つけて，線を引きましょう。</p> <p>○中心文を見つけられましたか。</p> <p>□見つけました。□段落の初めにあります。</p> <p>○どんな食品に変身していますか。</p> <p>□豆まきに使う豆です。□に豆です。</p> <p>(7段落まで繰り返す。)</p> <p>○ワークシートにまとめた中心文を，みんなで声に出して読みましょう。</p>	<p>スキル③中心文</p> <p>☆黒板掲示表</p> <p>◇机間指導をしながら，見つけられない児童にスキルを示して確認させる。</p> <p>◇中心文と単元目標とのつながりを意識させる。</p>  <p>中心文とはどんな文かな？</p> <p>スキル③中心文</p>
まとめ 5分	<p>8 学習内容を振り返る。</p> <p>9 分かったことや感想を書いて発表する。</p> <p>10 次時の学習内容の確認をする。</p>	<p>○中心文の見つけ方がわかりましたか。</p> <p>□わかりました。</p> <p>□難しかった。</p> <p>○わかったことや授業の感想を書いて発表しましょう。</p> <p>○次回は，接続語の勉強です。</p>	 <p>食材が，いろいろな食べ物に変化しているよ。</p> <p>スキル⑩並行読書</p>

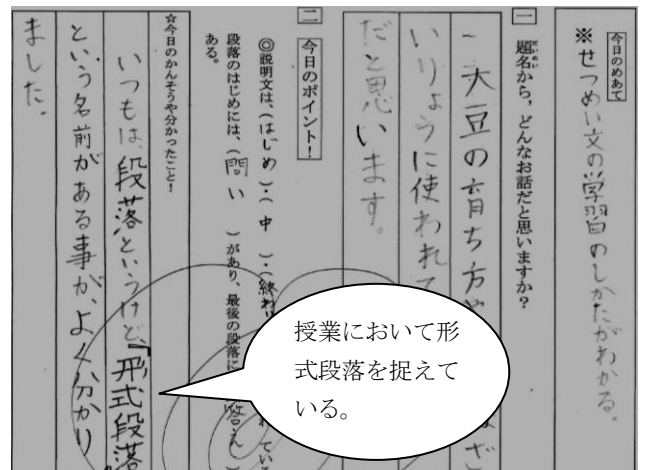
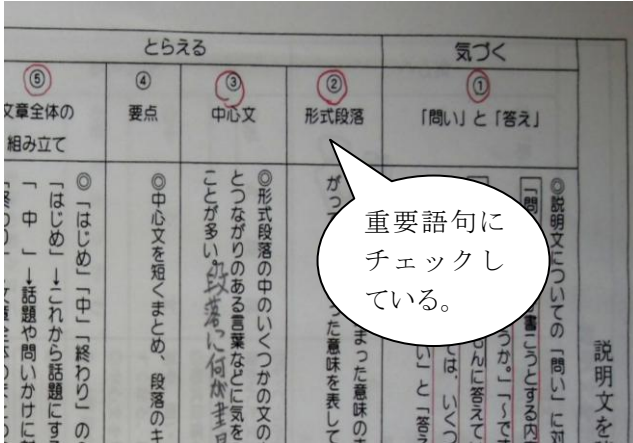
(7) 仮説の検証

① 「すがたをかえる大豆」の学習において具体仮説①を検証する。

学習スキルを活用しながら、文章全体の内容や要旨、段落相互の関係を捉えることにより、読みの力を育むことができるであろう。

【授業観察と授業後の感想より】

[第1時「説明文の学習に必要な学習スキルを理解し、文章構成に関心を持ちながら教材文を読むことができる]



(授業の様子)

第1時において、説明文を読むための「学習スキル」についての説明を行った。その際、「ありの行列」や「イルカのねむり方」の説明文で学習したことを振り返らせ、覚えていることを発表してもらった。多くの児童が、意欲的に発表することができた。特にA児やB児は、「問い」と「答え」、「はじめ・中・終わり」などを想起して発表することができた。

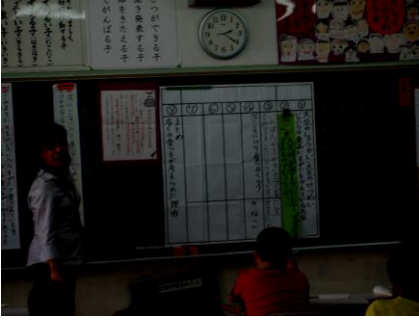
[授業後の感想では、以下のような記述が見られた。]

- ・形式段落のことが分かった。8人
- ・説明文には「問い」と「答え」があることが分かった。8人
- ・説明文には「はじめ・中・終わり」があることが分かった。5人
- ・段落にも名前があることが分かった。2人
- ・説明文を読むルールやポイントが分かった。2人
- ・はじめは、これから話題になることだと分かりました。1人
- ・説明文は「～です。」「～ます。」を使うことが分かりました。1人

(考察)

このように、「学習スキル」を意識した感想を書いている児童は、34人中27人(79%)となっており「学習スキル」の内容を意識して学習に取り組むようになってきていることが分かる。今後の指導においても、教師が意図的に学習展開にスキルの活用を取り入れていくことが必要であると考えられる。

[検証授業：第5時「中」の段落を正しく読み取り，中心文を見つけることができる。]



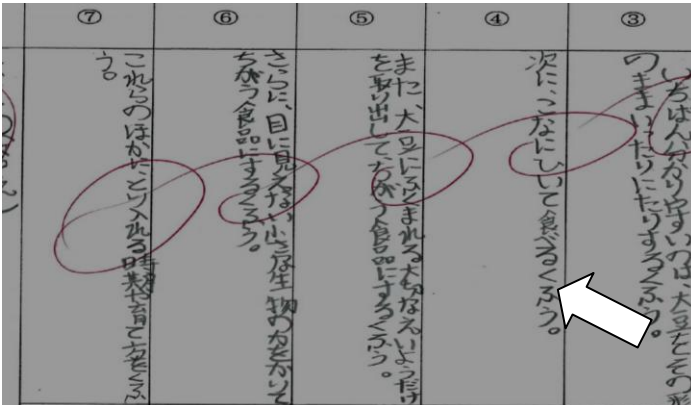
☆中心文の見つけ方を押さえる。



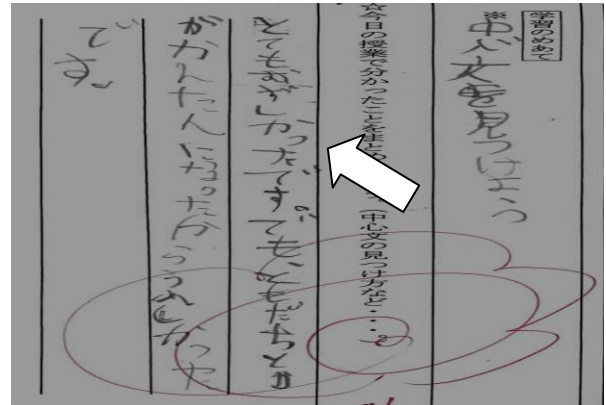
☆スキルで確認している様子



☆中心文を見つけている様子



☆中心文や工夫されてできた食品を読みとってまとめる  
ことができている。



☆友達に習いながら，中心文の見つけ方を  
理解できたようである。

(授業の様子)

第5時において、「学習スキル」を基に，前時の学習の振り返りや中心文の見つけ方の確認をした。児童の中から，「中心文は段落の最初のほうにあるよ。」「繰り返しの言葉があるよ。」の発言もあり，中心文の見つけ方や繰り返しの言葉を押さえながら，中心文を見つけることができ，満足そうであった。

[授業後の感想では，以下のような記述が見られた。]

- ・ 中心文の見つけ方が分かったのでうれしかったです。15人
- ・ 中心文には，繰り返した言葉があり，段落に何が書いてあるかを素早く書くことができる。4人
- ・ 中心文は，段落の最初か最後にあることが分かりました。4人
- ・ 中心文には，全部同じ言葉があることが分かった。4人
- ・ すがたをかえる大豆では，「くふう」が中心文であることが分かった。2人

(考察)

第5時において，「中心文の見つけ方」について書いている児童が34人中29人(85%)と第1時よりもさらに高くなっており，「学習スキル」の内容を意識して学習に取り組むことができたと考えられる。

また，単元テスト「読むこと」の観点において学級平均正答率が90.3%から93.4%と3.1%の上昇が見られた。特に，国語に苦手意識をもっていた児童の点数が伸びており，感想にも「国語の学習が楽しかった。またやりたいです。」と書かれていることから，学習意欲も高まってきたことが分かる。

しかし，「学習スキル」を活用して，課題を解決することが困難な児童もいた。その要因として，「問いと答え」に着目させて，中心文を考えさせるなどの教師の手だてが十分ではなかったことが考えられる。

②「食べ物のひみつを教えます」の学習において具体仮説②を検証する。

学習スキルを活用して学んだことを活かし、文章構成や説明のしかたを考え、説明文を書くことができるであろう。

【授業観察と児童の説明文より】

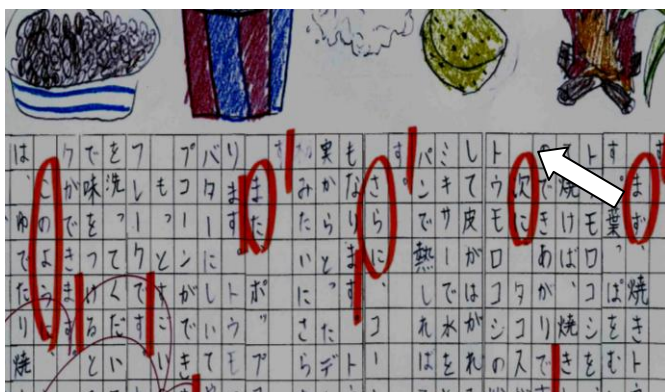
100%の児童が説明文の学習スキルで学んだことを活かし、「分かりやすい説明文」を書くことができた。以下に児童の説明文を紹介する。



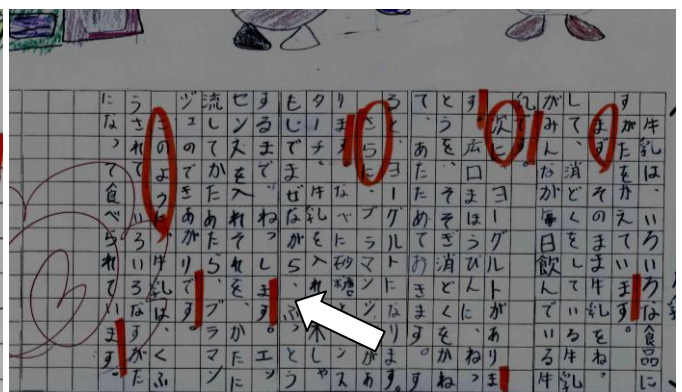
☆接続語が使われており、食べ物の変化の様子が分かりやすく説明されている。



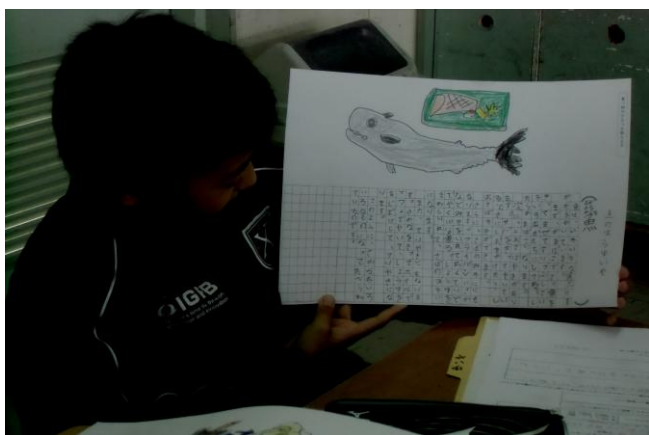
☆中心文を意識して書くことが出来ている。



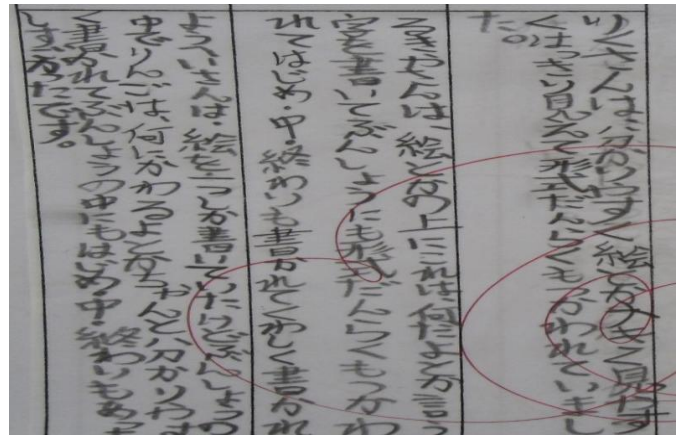
☆形式段落を意識しながら、食べ物の変化の様子を分かりやすく説明している。



☆本で調べて分かったことを「～です。」「～ます。」と文末表現を統一している。



☆グループの友達を相手に、出来上がった説明文の発表をしている。



☆友達の発表を聞いての感想に34人中28人の児童が「学習スキル」を意識した感想を書いている。

(考察)

児童は、「分かりやすい説明文」を書く場面において、学習スキルを活用することにより、形式段落・接続語・中心文・文末表現・挿絵の活用を意識しながら説明文を書くことができた。

児童の感想にも、「中心文や文章全体の組み立てが詳しくわかった。」「食べ物の工夫が中心文だとわかった。」「説明文は、分かりやすく説明することが大事だとわかった。」などの感想が書かれている。

これらのことから、具体仮説(2)の検証は、概ね有効であったと考える。

2 検証授業②

- (1) 単元名 かるたについて知ろう
- (2) 教材名 「かるた」江橋 崇 (光村図書 3年下)
- (3) 単元目標

「かるた」→【読(1)イ・オ・カ】【書(1)(ア)・(イ)(ク)】

- それぞれの段落で中心となる語や文をとらえ、引用したり、小見出しをつけて整理したりすることができる。
- 「かるた」について調べる活動を通して、長い間使われてきたことわざの意味を知ることができる。
- 指示語の役割を理解し、使うことができる。
- 「かるた」を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の捉え方の違いに気づくことができる。
- 「かっちゃんかるた」を作る活動を通して、地域の事に興味・関心をもち調べることができる。

(4) 評価規準

かるた (読む)			
【関・意・態】	【読む】	【書く】	【言語】
○かるたについて関心をもち、進んで文章を読んだり、人に聞いたりしている。	○中心となる語や文をとらえながら読み、小見出しを付けて段落の内容を整理している。 (1) イ ○小見出しの付け方について発表し合い、友達との考え方の違いに気づいている。(1) オ ○並行読書に取り組み、「かっちゃんかるた」を作る材料探しができる。(1) カ	○これまでの学習を通して、地域の教材から題材を選び、かるたの文を作っている。 (1) ア	○ことわざや慣用語について関心をもち、意味や使われ方を調べている。 (1) (ア) (イ) ○指示語について理解し、指示語を使ったやり取りをしている。(1) (ク)

(5) 単元について

① 単元の位置とねらい






児童は、これまでに三年上巻「イルカのねむり方」や「ありの行列」の仮説検証型と三年下巻「すがたをかえる大豆」の解説型の説明文の学習をしている。「イルカのねむり方」や「ありの行列」では、「はじめ・中・終わり」や「問い」と「答え」を捉えることを繰り返してきており、「すがたをかえる大豆」では、段落相互の関わり方や「問い」の有無、食べ物の工夫を読み取り、各段落の中心文をまとめる学習をしてきた。



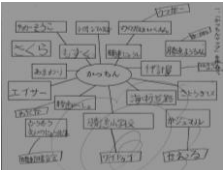
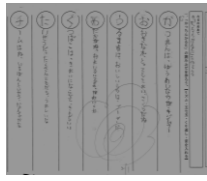
また、単元を通して、並行読書を意識させ、「食べ物のひみつを教えます」の学習後、興味のある食材の変化について調べ、食材のマップ作りや説明文を書くためのスキル(形式段落・つなぎ言葉・中心文など)を活かして、分かりやすい説明文を書く活動を行った。

本単元「かるた」は、今までの説明文とは異なった「情報解説型」の説明文であることを押さえながら、書かれていることの内容を理解するために、「かるた」を通して、これまで学習してきた段落の構成や段落の中心文を確認しながら、さらに内容をより端的に理解するための「小見出し」について学習することをねらいとしている。

また、幼い頃から親しまれている「かるた」には、長い歴史があり、先人の知恵や工夫が詰まっていることを知ることで、伝統的な言語文化の継承・発展に繋がると考える。また、「かっちゃんかるた」作りにおいて、並行読書を通して、地域について調べる活動を行うことにより、自分たちの住む地域への興味・関心が深まることを期待したい。

(6) 全体指導計画 (読む活動7時間 書く活動2時間 全9時間)

次	時	学習活動	指導上留意点	評価：学習スキルの内容
第一次読むこと 並行読書①	①	<p>「かるた」について関心を持ち、内容の大体を読み取る。</p> <p>①写真クイズをする。 ②かるた遊びをする。 ③範読を聞き読み仮名や形式段落に番号を打つ。 ④音読をする。 ⑤本時のまとめと次時の学習内容を知る。</p>	<p>○「いろはかるた」を使って、実際にかるた遊びをして関心を持たせる。</p> 	<p>○意欲的にかるた遊びに取り組んでいる。</p> <p>スキル ②形式</p>
	②	<p>新出漢字や言葉の意味を理解しながら内容を読み取る。</p> <p>①範読を聞きながら、分からない言葉や読めない漢字の確認をする。 ②音読しながら形式段落に分ける。 ③新出漢字の筆順の確認と書き取りをする。 ④辞典で語彙を調べる。 ⑤短文づくりをする。 ⑥本時のまとめと次時の学習内容を知る。</p>	<p>○デジタル教材や辞典を活用し、意味理解を深めながら本文の内容を読み取らせる。</p> <p>○辞書引きが困難な児童は、一緒に引いてあげる。</p> 	<p>○意欲的に書いたり、読んだりすることができている。</p> <p>スキル ②形式</p>
	③	<p>「はじめ」「中」「終わり」を予想する。</p> <p>①全文を読む。 ②かるたを読んだ感想を発表する。 ③どんなかるたが出てきたか。それは何段落にあるかを読み取る。(内容の大体を理解させる。) ④文章を大きなまとまりに分ける。 ⑤簡単な感想を発表する。 ⑥本時のまとめと次時の学習内容を知る。</p>	<p>○今までに学習した説明文を想起させ、文章の構成を話し合う。</p> <p>○機会があるごとに、これまでの説明文の学習を振り返らせる。</p> 	<p>○段落構成を意識しながら、書かれている内容の大体を理解している。</p> <p>スキル ①問・答②形式⑥組み立て</p>
第二次(読むこと) 並行読書①	④	<p>第1段落を読み、小見出しを付ける。</p> <p>①小見出しについて学ぶ。 ②こそあど言葉について学ぶ。 ③大事な言葉や文を表に書き出す。 ④小見出しを考える。 ⑤本時のまとめと次時の学習内容を知る。</p>	<p>○大事な言葉や文を見つけられない児童には、何について書かれているかを尋ね、それについて説明されているところを見つけさせる。</p> 	<p>○小見出しについて理解し、段落の内容を短い言葉で表している。</p> <p>スキル ②形式⑥組み立て ⑤小見出し⑨指示語</p>
	⑤	<p>第2段落から第4段落まで読み、小見出しをつける。</p> <p>①第2段落から第4段落までを音読する。 ②第2段落から第4段落の大切な言葉や文を表にまとめる。 ③小見出しを付ける。 ④みんなで、よりよい小見出しを付ける。 ⑤本時のまとめと次時の学習内容を知る。</p>	<p>○大事な言葉や文を見つけられない児童には、何について書かれているかを尋ね、それについて説明されているところを見つけさせる。</p> 	<p>○小見出しについて理解し、段落の内容を短い言葉で表している。</p> <p>スキル ②形式⑥組み立て ⑤小見出し</p>

次	時	本時のめあてと学習活動	指導上留意点	評価：学習スキル
(読むこと)並行読書⑩ ↓	⑥	※検証授業 第5段落・第6段落を読み、小見出しを付ける。 ①第5段落と第6段落を音読する。 ②第5段落と第6段落の大切な言葉や文を表にまとめる。 ③小見出しを付ける。 ④みんなで、より良い小見出しを付ける。 ⑤本時のまとめと次時の学習内容を知る。	○教科書p81の「小見出しをつける」を確認させる。 	○小見出しについて理解し、段落の内容を短い言葉で表している。 スキル ②形式⑥組み立て ⑤小見出し
	⑦	筆者の考えについて話し合う。 ①小見出しをもとに段落構成を考えましょう。 ②第6段落の文章を読みましょう。 ③筆者の考えについて話し合う。 ④「かるた」の感想を交流する。 ⑤本時のまとめと次時の学習内容を知る。	○「中」の具体例が「終わり」の筆者の考えに繋がることを確認する。 	○段落の構成を理解し、筆者の考えを読み取っている。 スキル ②形式⑥組み立て ⑤小見出し
第三次(書くこと)並行読書⑩ ↓	⑧	「かっちゃんかるた」を作る。 ①勝連のイメージマップを作る。 ②イメージマップをみんなで広げる。 ③イメージマップから短文のモデルを考える。 ④グループごとに「あいうえお」等を担当し、短文をつくる。 ⑤本時のまとめと次時の学習内容を知る。	○五七調でなくとも、リズムのよい文になっていけばよいことを伝える。 ○地域教材から興味のあることを見つけさせる。 	○七五調やリズムのよい短文を工夫している。 スキル ⑩表現
	⑨	「かっちゃんかるた」を作る。 ①読み札をつくる。 ②取り札をつくる。 ③かるたを紹介する。 ④単元のまとめをする。	○五七調でなくとも、リズムのよい文になっていけばよいことを伝える。 ○地域教材から興味のあることを見つけさせる。 	○五七調やリズムのよい短文を工夫している。 スキル ⑩表現

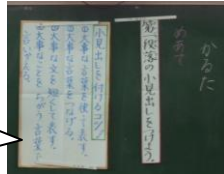
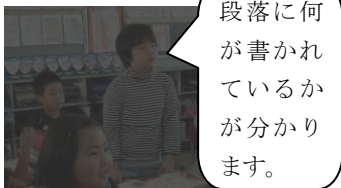



(7) 本時の指導

①本時の目標：第5段落・第6段落を読み、小見出しを付ける。

②本時の仮説：小見出しを付ける場面において、学習スキルの活用や考えを交流させることによって、より良い小見出しを付けることが出来るであろう。

③本時の展開（6／9）

	学 習 活 動	○指導言 □予想される児童の反応	◇指導上の留意点※評価☆準備
導入 5分	<p>1 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>第5段落・第6段落を読み、小見出しを付けることができる。</p>	<p>○前時の授業で、第4段落までの大事な言葉や文をまとめて小見出しを付けてきましたね。今日は、どんなお勉強をするのかな。</p> <p>小見出しの付け方の確認をしましょう。</p> 	<p>☆ワークシート 中心文の説明表 ◇めあての確認をさせる。</p> <p>スキル ②形式⑤小見出し</p>
展開 35分	<p>2 5段落の小見出しを付ける。</p> <p>①大事な言葉や文に線を引き、小見出しを付ける。</p> <p>②発表する。</p> <p>③みんなでまとめる。</p> <p>3 6段落の小見出しを付ける。</p> <p>①②③の活動を繰り返す。</p> <p>4 小見出しの良さについて考え、発表する。</p>	<p>○第5段落には、どんな小見出しを付ければよいのでしょうか。前時までの学習を思い出しながら、教科書を読んで、大事な言葉や文に線を引き、ワークシートに小見出しを書きましょう。（音読スタート）</p> <p>○小見出しを付けられましたか。 □いろはかるたです。 □いろいろなかるたです。 □かるたは、多くの人に親しまれている。</p> <p>○次に、6段落の大事な言葉や文に線を引いて小見出しを付けてみましょう。（音読スタート）</p> <p>○小見出しを付けられましたか。どんな小見出しになるか皆で考えてみましょう。</p> <p>□かるたは、大きな贈り物です。 □かるたは、先人の知恵が詰まっている。</p> <p>○いろいろな小見出しを付けてきましたが、小見出しを付けることの良さについて考えてみましょう。</p>	<p>◇机間指導をして、躓いている児童に、前時のワークシートを示して考えさせる。</p> <p>◇教科書に線を引かせてワークシートに書かせる。</p> <p>※ワークシート ◇複数の小見出しが出たら、大事な言葉を繋げるようにさせる。</p> <p>※自分の考えを発表することが出来ている。</p> <p>◇教科書の線を引かせ、ワークシートに書かせる。</p> <p>◇児童の発表を板書する。</p>  <p>段落に何が書かれているかが分かります。</p>
まとめ 5分	<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>6 次時の学習内容を知る。</p>	<p>○授業の感想をまとめて発表しましょう。</p> <p>○次の時間は、「文の組み立て」と「筆者の考え」について勉強します。かるた作りの材料も地域に関する本から見つけて下さい。</p>	<p>※ワークシートに授業の感想を書くことが出来るか。</p> 

(8) 仮説の検証

①「かるた」の学習において具体仮説①の検証をする。

学習スキルを活用しながら、文章全体の内容や要旨、段落相互の関係をとらえることにより、読みの力を育むことができるであろう。

【授業観察と授業の感想より】

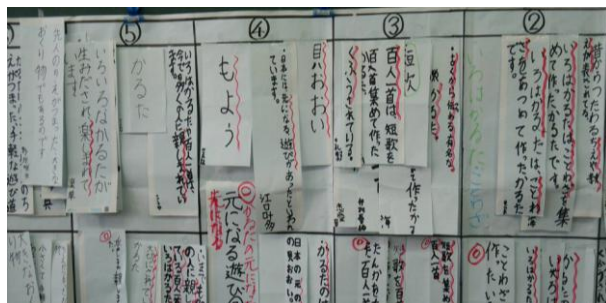
[第6時：第5段落・第6段落を読み、小見出しをつける。]



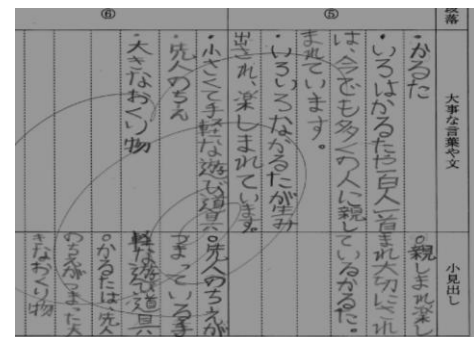
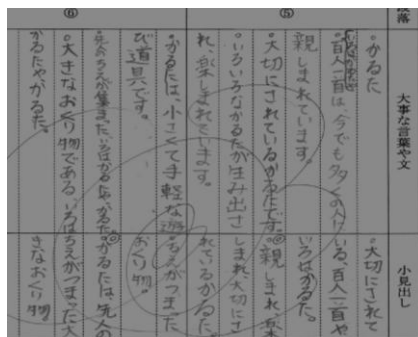
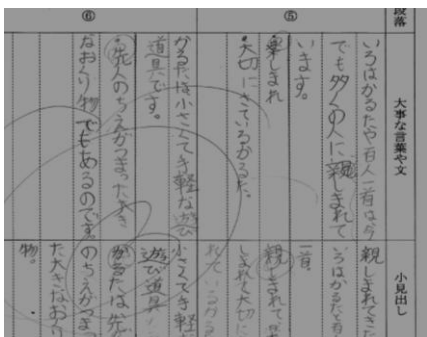
☆大事な言葉や文線を引く。



☆短冊に書く。



☆みんなでより良い小見出しを付ける。



☆各段落を読んで大事な言葉や文を見つけて線を引きワークシートにまとめる。

(授業の様子)

第6時において、教科書の大事な言葉や文に線を引き、ワークシートにまとめる活動をしなが、  
「すがたをかえる大豆と似ているね。」「中心文が小見出しになるんだよ。」と呟く児童がいた。  
繰り返しの言葉や中心文、前時の既習事項を想起して、小見出しを考えている様子が見えた。

[授業後の感想で以下のような記述が見られた。]

- ・第5段落と第6段落の小見出しの付け方がわかって楽しかった。13人
- ・小見出しは、難しかったけど、書くことができてうれしかった。6人
- ・小見出しの良さが分かった。5人
- ・小見出しは難しく、5段落が特に難しかった。3人
- ・小見出しを考えたとき、いろいろな考え方が出てきて、楽しかった。1人
- ・小見出しのよさを書くのが難しかった。1人
- ・文章の内容や文章の組み立てが分かってすごく楽しかった。1人
- ・郷土かるたやいろいろなかるたがあると知って良かった。1人

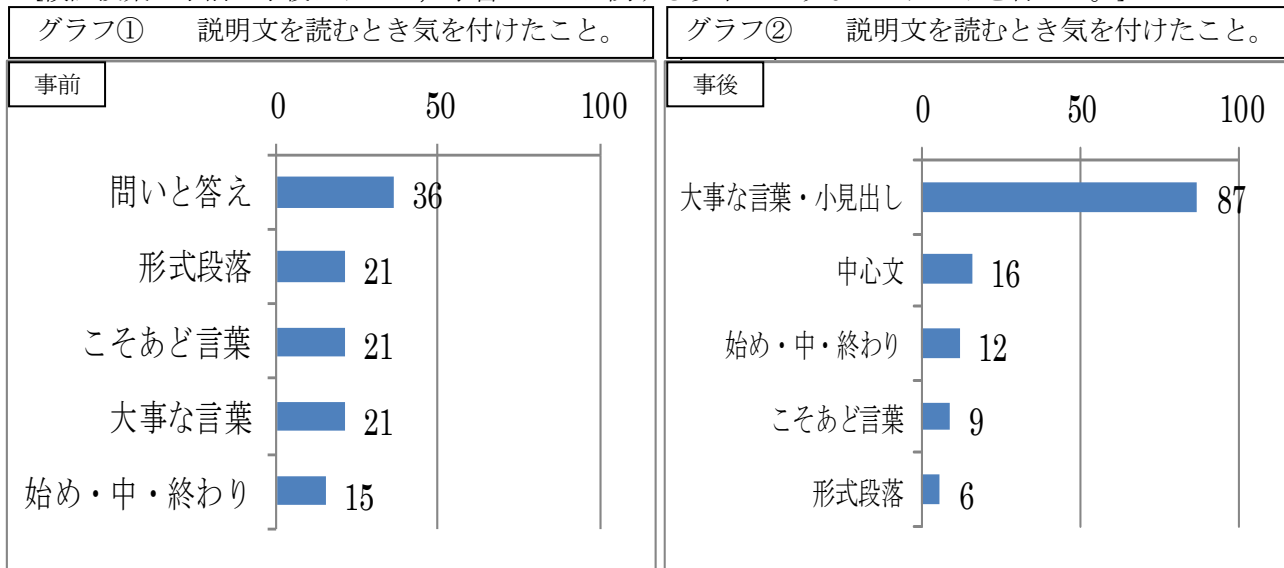
(考察)

第6時「第5段落・第6段落の小見出しの付け方」の事後アンケートの結果、31人中30人(97%)の児童が、小見出しや文章の組み立てを意識した感想を書いている。また、単元テスト「読むこと」の観点において学級平均正答率が94.8%となっており、1回目の検証後の結果よりも1.4%の上昇が見られた。

しかし、本文の内容や形式段落、文章の組み立て、大事な言葉や文を見つけてまとめることは出来たが、小見出しを付けることが難しかったと答える児童が3人(10%)いた。特に第5段落の小見出しが、いくつかの大事な文を繋げる内容だったので難しかったようである。スキル⑤に戻って確認する必要があった。

【アンケートの結果より】

【検証授業の事前と事後において、学習スキルに関する以下のようなアンケートを行った。】

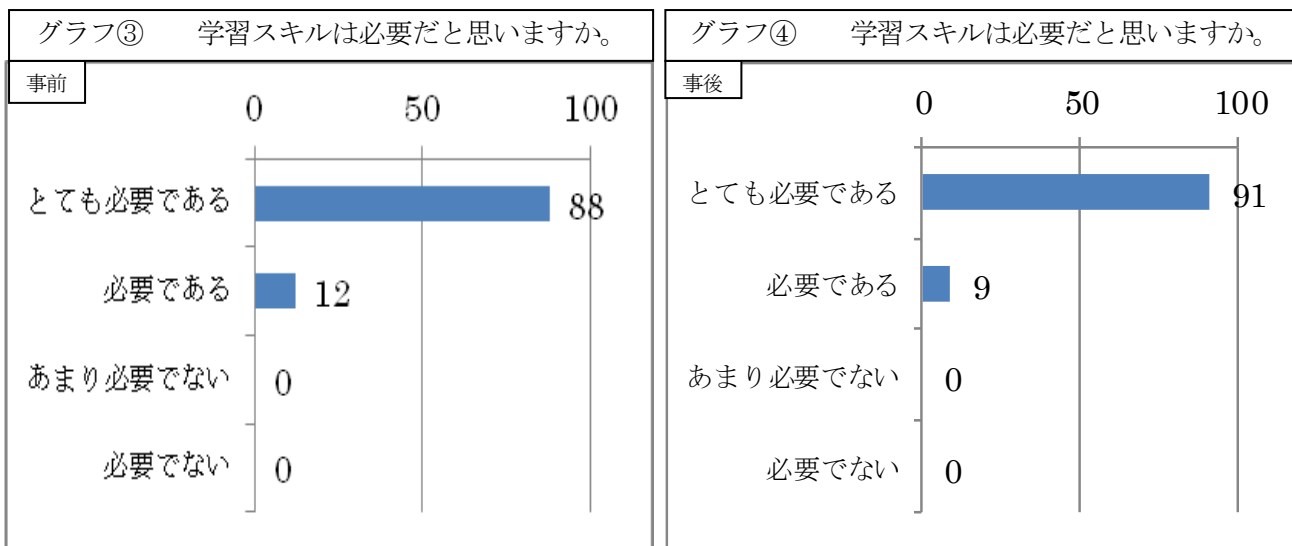


(グラフ①②の考察)

事前調査では、「すがたをかえる大豆」で押さえた「問いと答え」と答えた児童が36%と高くなっており、次いで「形式段落、こそあど言葉、大事な言葉」がそれぞれ21%となっている。

また、事後調査では、「かるた」で押さえた「大事な言葉、小見出し」と答えた児童が87%と高くなっており、次いで「中心文」16%、「始め・中・終わり」12%の順になっている。

グラフ①②の結果より、児童は、「学習スキル」の内容を意識し、学習に取り組んでいることが分かる。



(グラフ③④の考察)

事前調査では、学習スキルは、「とても必要である」88%「必要である」12%となっており、事後調査では、「とても必要である」91%「必要である」9%となっている。

グラフ③④の結果より、殆どの児童が、説明文の学習を通して、説明文を読むための「学習スキル」の必要性を感じていることが分かる。

## VII 研究の成果と課題・対応策

### 成果

○学習スキルを活用して説明文の学習に取り組むことにより、以下のような成果が見られた。

- (1) 説明文を理解するための大切な用語や意味、見つけ方を理解することができた。
- (2) 読み取りで学んだ表現の工夫を自分の文章にも活かして説明文を書くことができた。
- (3) 見通しを持ち、意欲的に学ぼうとする姿が見られた。

### 課題・対応策

- (1) 児童が主体的に学習を展開できるよう、さらに、「学習スキル」の内容や活用方法を考えたい。
- (2) 「読む活動」から「書く活動」へ繋げる活動が十分ではなかったため、書くための学習スキルや「書く活動」に繋げるよう意図的・計画的な指導の工夫に努めていきたい。

### 〈引用文献・参考文献〉

- |                     |                      |           |
|---------------------|----------------------|-----------|
| 文部科学省 2014          | 『小学校学習指導要領解説 国語編』    |           |
| 文部科学省 2004          | 『文科省審議会答申』           |           |
| 岩手県教育センター 2009・2010 | 『岩手県教育研究発表資料』        | 岩手県教育センター |
| うるま市教育研究所 2013・2014 | 『うるま市教育研究所研究収録』      | うるま市教育委員会 |
| 白石範孝 著 2013         | 『3段階で読む新しい国語授業』      | 文溪堂       |
| 田近 洵一・井上 尚美 編 1989  | 『国語教育指導用語辞典』         | 教育出版      |
| 白石範孝編著              |                      |           |
| 東村山市立富士見小学校著 2011   | 『説明文の読解力向上を図る授業作づくり』 | 東洋出版社     |